

仮設住宅でのディアコニア報告書

2017年1月14日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

* 報告期間:2016年12月22日～12月31日(2016年第12次)

◇12月22日(木) 生鮮食品等仕入(COSTCO・ハナマサ) 横浜発(首都高速大渋滞) 荷物搬入

◇12月23日(金) 宅配便荷受け・整理 仕込み

【1】牛河内第3仮設住宅(南相馬市・小高区民)(4回目) 12月24日(土)

南相馬市小高区からの避難者が住む仮設住宅で、昨年6月に続き5回目の訪問
建設戸数34戸で現在は21世帯が入居中。

南相馬市社協に仲介していただいた。自治会長さんとも顔馴染み。

奉仕者 石川和宏



支援の結果

今回皆さんに提供したのは、DVD 上映(綾小路きみまろライブ第6巻)・

昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・庖丁研ぎ

支援者を除く参加者7名(内男性2名) 総参加者8名 庖丁研ぎ4世帯 5
本

各教会や有志に提供して頂いた「クリスマスプレゼント」を皆さんにお配りし
た。



皆さまからお聴きしたこと

《原発のこと・故郷のこと》

- ・3月から小高で学校を再開すると言うがどうなるか。こちら(鹿島)から通うことになるのではないかな。
- ・小高でも山の方は、足(交通の便)がない。
- ・サルが多い。木を揺すり、枝を落とし牙をむいて威嚇する。群れが大きくて、見ると身震いする。
- ・サルは、6号線(国道)を集団で横断する。車は停車して群れを通す。親が道路上に立って見張り役をする。50匹以上のこともある。
- ・日光で暖められた舗装道路の上で、ゴロンと横になっている時もある。

《帰還について》

- ・自宅に帰った時の医者・薬局がない。買い物をするスーパーがない。
- ・新聞配達がない。テレビの番組表が見られない。年寄りには困っている。
- ・帰還は状況を見てから。自宅の準備が出来たら。
- ・除染が終われば帰る。
- ・生きている内には、帰りたいたいと思っている。
- ・大きい店(スーパー)が出来れば嬉しい。

《Café de FUKUSHIMA のイベントについて》

- ・人数が少なくなったのにわざわざ来て頂き有り難かった。
- ・このような立場になった人達の事を忘れず、これから小高で生活していく様子を見守って欲しい。
- ・みんなと話し合える場としてよかった。
- ・みんなと会えて、色々な話を聞けて、楽しかった。これからも続けてもらえれば有り難い。

【2】南一丁目仮設住宅(郡山市・川内村民) 12月26日(月)

この仮設は、建設総数316戸で、川内村(*)と富岡村からの避難者が混じっているが、今回も川内村からの避難者を支援。

8月に続き5回目の訪問。志田自治会長と相談しての開催。会場は、「あさかの杜ゆふね」(福島県が設置した仮設住宅の高齢者サポート拠点で川内村の社協が運営)

建設戸数150戸 現住約60世帯だが、川内村と両方に済んでいる方も多く、「何人住んでいるか」ということでは、はっきりしない。

郡山市のほぼ中心、イベント会場の「ビックパレット」敷地内にある。サマリタンハウスからは、白石IC、郡山ICを経由し、123km・2時間

奉仕者は、二宮創牧師(岐阜県太田教会) 二宮恵美子姉 石川千鶴子 石川和宏



2会場分の荷物

皆さんに提供したのは、腹話術・DVD上映(綾小路きみまろライブ第6巻)・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・ビンゴゲーム・庖丁研ぎ

二宮牧師には、「年の終わりに相応しい皆さんが「ホッ」とする挨拶」をして頂いた。(翌日も同様)

*川内村について(避難指示解除:2014年10月)

(数字は川内村HPから 2016年8月1日現在)

避難者事故前の人口:3,038人(2011年3月11日現在の住民登録人口)

帰還者数 778世帯 1,830人

避難者数 920人(県内734人、県外186人)

郵便物の送付先を自宅住所にした方を帰還者とした人口:1,830/2,750(66.5%)

「復興から置き去り」OurPlanet-TV 2013年12月27日

川内村は、2012年1月に、村長が他の自治体に先駆けて「帰村宣言」を行い、4月には、川内村役場機能・小中学校が川内村に戻った。避難解除に伴い、8月には一人当たり月10万円の損害賠償が打ち切られ、更に今年3月には、20万円の生活保障も打ち切られている。

しかし、完全に村に戻っている人は必ずしも多くない。現在でも、完全に川内村に居住場所を戻している帰村者は約535名、週4日滞在している帰村者は約920名、村外で借上げ住宅に生活している人が約1,600名、仮設住宅暮らしが約680名となっている。なかでも仮設住宅で暮らしている世帯は、高齢者や障がい者など、仕事がなく、年金暮らしの世帯が大半だ。

川内村に帰りたくとも、家族がバラバラになる中で、車がない、お金がないなどといった理由で、帰還することは難しい状況に置かれている。賠償金は使い果たし、年金や貯金を切り崩しての厳しい生活。人間関係も厳しくなっている。

支援の結果

支援者を除く参加者22名(内男性3名) 総参加者26名

庖丁研ぎ 14世帯 17本

歳末ビンゴ大会

衣服(新品)(*)を来場者に差し上げた。(写真)

*2015年末に続き今回も木曾川染絨(株)安藤篤史社長様(岐阜県笠松町)からレギンスなど新品衣服を大量(上下数十着?)に寄贈して頂いた。

また、米は30kg入り2袋などを自治会に差し上げた。



皆さまからお聴きしたこと

《困っていること》

- ・今は、仕事は何もなくて困っている。
- ・生活費が増えた。
- ・川内村に大きな家があるが、一人なので大きな地震があると心配だ。大工さんも危ないと言っている。二重生活で光熱費も高い。仮設は3月いっぱいと言われているから帰るしかないが…。
- ・住まいが決まっていない。
- ・米も作れないのでいろいろ困っている。



《帰還について》

- ・身体が弱いので、医療が安心できる状態になるまで、ここにいます。
- ・医療・交友・交通・生活物資購入など整ったら帰る。
- ・川内村は不便だ。
- ・病院や生活用品購入先が整うこと。
- ・家が壊れているので帰れない。壊れた家に帰るのはとても心配だ。家の状態を大工さんにしっかり整えてもらえれば帰る。
- ・家は雨漏りし、お風呂も壊れている。病院のことも…。
- ・放射能が心配。医者がいない。山菜・キノコは汚染されて元に戻らない。
- ・富岡町に出来る「ふたば医療センター(*)」が完成したら考える。(※2018年4月開設予定)



《Café de FUKUSHIMA のイベントについて》

- ・とても楽しかった。今度また来てください。
- ・話がいろいろ出来た。
- ・いつも感謝しています。皆さんと一緒に食事や会話が楽しい。今後も続けて欲しい。
- ・何度も支援頂いているので、感謝しています。今後も続けて欲しい。村に帰っても来てください。
- ・川内村に帰っても続けて頂いたら大変うれしいです。
- ・入居者と楽しく過ごせた。川内村でも実施して欲しい。

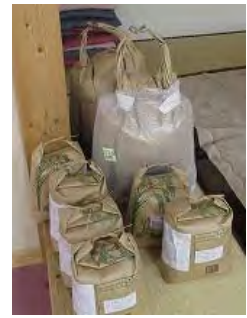


川内村民仮設住宅2ヶ所での米の支援

日本キリスト改革派中部中会(26教会)から、米の購入費用を戴いたので、26・27の両日、5kg袋を50数個各部屋にお届けした。

米は、放射能の全量検査をした福島産の新米で、福島県の農家(生産者)を支援している「福島やさい畑～復興プロジェクト」(NPO法人)(カトリック二本松教会内)から購入した。

配布には、中部中会の二宮牧師に立ち会って頂き、お手伝いもして頂いた。



【3】若宮前仮設住宅・稲川原仮設住宅(郡山市・川内村民) 12月27日(火)

広大な敷地に建設総数 600 戸以上の仮設住宅がある。この内川内村の避難者向けは、155 戸。他に双葉町・富岡町(共に原発立地町で補償金も継続中)。8月に続き5回目の訪問。会場は、若宮前仮設住宅。郡山市北方市街地で奥羽大学が近い。サマリタンハウスからは、白石 IC、郡山 IC を経由し、117 km・2時間弱。奉仕者は、二宮創牧師(岐阜県太田教会)二宮恵美子姉 石川千鶴子 石川和宏

支援の結果

支援者を除く参加者 16 名(内男性 5 名) 総参加者 19 名 庖丁研ぎ 8 世帯 10 本(米の支援(配布)については、南一丁目の報告にまとめて記載)

歳末ビンゴ大会

木曾川染絨様からのレギンスを皆さんにお配りした。イベント後に、着て見せに来た方がおられた。(写真)



皆さまからお聴きしたこと

《経験したこと》

- ・何の情報もなく、何も持たず避難して、今日に至っている。
- ・何を言っても聞いてもらえないので、ずっと我慢して、馴れてしまった。
- ・村では米・野菜を作り、畜産もしていた。今年夫を亡くした。自宅はどんどん壊れていくのを見るのが辛く、大分前に壊した。
- ・飼っていた牛は注射で殺した。子牛は自分で取りあげ、ペットのように可愛がっていた。



《困っていること》

- ・仮設は、息子たちが来ても狭くて困る。
- ・狭い。
- ・来年3月には、ここを出なければならないが、未だ行く先は決まっていない。
- ・ここにも南一丁目にも、透析患者がいる。村から病院には通えない。村以外に住宅を求めるのも難しい。そういう人のためにアパートを借り上げ、2年間は面倒を見てもらえることになっている。



《帰還について》

- ・去年川内村に帰ったけれど、妻の医者通いのため、仮設に時々戻っている。

《Café de FUKUSHIMA のイベントについて》

- ・食事が美味しく楽しかった。ご馳走様でした。
- ・楽しかったからまた来てください。



【4】牛越第1仮設住宅・牛越第2仮設住宅(南相馬市・小高区民) 12月29日(木)

南相馬市小高区からの原発避難者の方々が住む仮設住宅。原発から約25kmで、原発に最も近い仮設住宅の一つ。通例2仮設住宅と一緒にイベントを行っている。

建設戸数は、第1が96戸、第2が98戸で、今の居住者は共に70~80戸程度。

軍司自治会長に申し入れをして年末の開催を決定した。5月に続き4回目でこの時も合同開催。会長自らもボランティア活動をなさっている。

名古屋岩の上教会と合同開催 相馬牧師には、支援側代表として挨拶をした。

奉仕者は、相馬伸郎 相馬直子 岡本直人 岡本真理(以上名古屋岩の上教会)

愛智愛 愛智真行(新座志木教会) 石川和宏



支援の結果

支援者を除く参加者26名(内男性7名) 奉仕者などを含め総計33名 庖丁研ぎ14世帯18本

(参加者数は2015年12月の時(28名)とほぼ同じ)

歳末ビンゴ大会 ゲームは、愛智真行くん(中学1年)が進行役をした。子どもの支援者は、どこでも皆さんに喜んで受け入れて頂ける。

名古屋岩の上教会は、参加者に「きしめん」を差し上げた。

ミネラルウォーター入居者全戸配布

牛越第1・第2仮設では、入居全世帯分のミネラルウォーター(2リットルペットボトル160ケース960本)をお届けした。各戸配布は自治会長さんに引き受けて頂いた。また、購入する値段と配達でフレスコキクチ(当地のスーパー)の店長さんに御協力頂いた。

皆さまからお聴きしたこと

《困っていること》

- ・部屋が狭い。(多数の方)
- ・家が狭い。
- ・お金。
- ・狭すぎる部屋に荷物が一杯。
- ・隣が居なくなり、さびしいです。

《帰還について》

- ・小高に帰ることは考えていない。
- ・病院とスーパーがない。線量が高い。
- ・12月9日にモニタリングしたところ、 $0.8\mu\text{Sv/h}$ と高い。
- ・小高は自分で見に行っている。
- ・若い人たちが帰らないので、一人になる。怖い。
- ・インフラ整備が終わり、子供たちが帰るならば小高に戻りたい。
- ・医者・薬局がない。新聞配達がない。不便だ。(多数の方)
- ・未だ仮設に残っていたい。
- ・小高で農業が出来るようにして欲しい。圃場整備完了している。
- ・大きなスーパーがない。
- ・近所に人々が戻ったら。
- ・8月に住宅が出来長男と祖父は小高に住んでいます。祖母は仮設と小高。
- ・スーパー・病院



・職場が少ないので、若い者が帰って来ても将来が不安。

《Café de FUKUSHIMA のイベントについて》

- ・みんなに会うことが出来た。一緒に食事楽しかった。
- ・友だちにも会えた。集まる機会、顔を合わせる時がない。会話をする場を何回もやって欲しい。
- ・話が出来た。みんなと笑って話して食事も戴いてよかった。これからも楽しいことが出来るようにしてもらいたい。
- ・大声で笑うことが出来た。また御願いたい。(多数の方)
- ・ゲームなどととても楽しかった。豚汁が美味しかった。
- ・楽しかった。また御願います。8月に小高に帰りますが、小高にも来てください。
- ・リラックスできました。面白いことをまた御願います。
- ・大笑いし、みんなの顔が見られてよかった。また続けて欲しい。
- ・至れり尽くせりのおもてなし。続けて頂ければ幸いです。
- ・お忙しい中、有り難う御座いました。次も楽しみにしています。
- ・久々に笑えた。皆さんとの交流で顔を合わせられた。小高に帰っても交流の場があればいいと思う。
- ・きみまろ・ビンゴ。こんなに笑ったことはない。
- ・皆さんで、簡単な健康体操みたいなことが出来れば…。
- ・健康講話などは助かります。



【5】小池原畑第2仮設住宅(南相馬市・小高区民) 12月30日(金)

南相馬市小高区などからの避難者が住む仮設住宅で、先月に続いての4回目の訪問。

一般的には、集会所は年末に閉ざされる。11月の訪問時、蒔田けい子自治会長年末のイベント開催を打診したところ、快諾して頂き開催が決まった。

建設戸数130戸で現在は50世帯が入居中。

名古屋岩の上教会と合同開催で、相馬牧師が支援側代表として挨拶をした。

奉仕者は、相馬伸郎 相馬直子 岡本直人 岡本真理(以上名古屋岩の上教会) 石川和宏



支援の結果

支援者を除く参加者16名(内男性3名)奉仕者などを含め総計21名歳末ビンゴ大会(ビンゴ賞品の袋詰めは、自治会に引き受けて頂いた。)

名古屋岩の上教会は、居住中の全世帯に「きしめん」を各戸配布した。



皆さまからお聴きしたこと

- ・かつて仮設に届けられていた各団体からのカレンダーは、なくなった。
- ・この仮設で、正月を小高の自宅で過ごす人はいない。
- ・また来てください。顔だけでも出してもらえたら有り難い。

【6】まとめ

5会場・7仮設住宅を訪問(支援)しました。

出会った方々 87名(内男性20名) 総参加者 108名 庖丁研ぎ 47世帯 53本

29日・30日は、名古屋岩の上教会との合同開催でした。

今回は年末ギリギリの開催でした。仮設住宅住民が減少する中で、参加者はどうなるかと心配もありましたが、いつもより多くの被災者にお出で頂きました。また、この時期なのに、8名の方々に応援して頂きました。(この1年間で出会った被災者の方々は、総数1,489名(内男性309名)でした。(庖丁研ぎは631世帯 743本)になりました。)

今回もたくさんの貴重な生の証言を伺い記録しました。証言が生かされるために、これらは支援に協力して頂いた方々と共有し、合わせて行政にも伝えたいと考えています。

歳末ビンゴ大会を行い、大変な盛り上がりでした。ビンゴのような雰囲気になると皆さん気合いが入ります。支援者の皆さんからたくさんの賞品を提供して頂いたので、楽しさだけでなく、被災者の実用に役立つことが出来ました。

物資などを支援したこと、献げて頂いた方のこと

全国の皆さまから非常に多くの支援物資がサマリタンハウスに届きました。段ボールで二十数箱になります。(写真)

中にはメッセージが付いたクリスマスプレゼントのセットや手縫いの雑巾もありました。

クリスマスプレゼントやビンゴゲームなど用いて、被災者の方に喜んでいただけました。皆さんの「忘れていない」という心を、「もの」を媒介して避難者にお伝えし、感じ取って頂けたと思います。集会では、「もの」に託した支援者の連帯の思いを、どこでも必ず語るのですが、皆さんの反応・表情からそう伝わってきます。

***今回御協力頂いた方々(献金・物資)**

春日井教会 高蔵寺教会 恵那教会 金沢教会 名古屋岩の上教会 那加教会 岐阜加納教会 太田教会
港南台キリスト教会 山元のぞみ教会 秩父教会 新座志木教会 改革派中部中会
光が丘聖書発見学習指導者訓練会様

木曾川染絨(安藤社長) 掘基枝様 市村ケイ子様 黒田敦子様 三田村苗美様 久米淑子様 須賀庸子様
山本弘夫様 蛭原まゆみ様 吉村早苗様 加藤尚恵様 大栗由起子様 杉山昌樹様 杉山友実子 二子石章様
中野昭子様 狩野照乃様 愛智直行様 愛智愛様 岡本真理様 岡本直人様

御協力頂き感謝します。「物資」を介し、「同情・連帯・共生の心」も、被災者・避難者に届けることが出来ました。筆者(報告者)自身も、賛同して下さった団体・個人の「数」にとっても驚き、心強く思っています。

木曾川染絨の安藤社長は、先のメールで、「私は絶対に被災者の方々の事は忘れません。助け合うことが絶対に必要だと考えています。」と表明されています。賛同して下さった方々は、皆さん同じ思いでしょう。

被災者支援をしている私も、大いに力付けられました。紙面からもお礼申し上げます。



今後の支援予定:

【1月】 1月18日～1月28日(2017年第1次)(7ヶ所)

- ◇1月20日(金) 小高東町復興住宅(2回目)(南相馬市・小高区民)
- ◇1月21日(土) 社協いきいきデイサービス(初回)(南相馬市の仮設・借り上げ住宅の方々)
- ◇1月23日(月) 吉倉公務員宿舎飯館自治会:大人向け(初回)(福島市・飯館村民)
- ◇1月23日(月) 吉倉公務員宿舎飯館自治会:子ども向け(初回)(福島市・飯館村の子供たち)
- ◇1月25日(水) 岳下仮設住宅(4回目)(二本松市・浪江町民)
- ◇1月26日(木) 社協ニコニコ元気塾(8回目)(南相馬市・南相馬市民)
- ◇1月27日(金) 飯館村南相馬自治会(南相馬市・飯館村民)

【2月】 2月16日～2月25日(2017年第2次)(5会場 6仮設住宅 1復興住宅)

- ◇2月18日(土) 上野台・大木戸仮設住宅(3回目)(伊達市・飯館村民)
- ◇2月20日(月) 友伸ランド仮設住宅(4回目)(南相馬市・小高区民)
- ◇2月21日(火) 大町災害公営住宅(初回)(南相馬市原町区・南相馬市民)
- ◇2月23日(木) 南一丁目仮設住宅(6回目)(郡山市・川内村民)
- ◇2月24日(金) 若宮前仮設住宅・稲川原仮設住宅(6回目)(郡山市・川内村民)